千葉県日独協会通信 N0. 92-2014 年 12 月 13 日

Die Eiche ディ アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 清和会第２ワールドナーシングホーム
電話:047-461-9111 Fax:047-461-7010
http://www.jdg-chiba.com

ドイツ軍人追悼慰霊祭

「歴史的意義と平和への願い」を訴えて

第一次大戦開戦百年 協会主催20年

参列者最大規模の70人に

この日午前11時。快晴。気温12・4度。北北東の風1・8㍍。当協会が主催して20周年になる慰霊祭は杉田房之事務局長の開式の辞で静かに始まった。

霊園の一角にドイツ、日本、そしてロシア兵の戦没者の慰霊碑が並んで建つ。白菊が供えられ、お線香の煙がたちのぼる。ドイツ連邦共和国大使館からS・ヘルツベルク公使、C・ブッシュ武官ら来賓はじめ、当協会会員70人を超える参列者が詰めかけた。中でも、2年ごとにドイツ各地で演奏会をしているという県立千葉女子高のオーケストラ部員6人が山岡健先生に引率され初めて参加したのが目を引いた。

黙とうに続き、当協会の宗宮好和会長が第1次世界大戦と習志野俘虜収容所の歴史を顧みながら追悼の辞を始めた。会長は収容所の兵士たちの生活態や地元の小学校教諭、児童との交流、友情などを「今年は第一次世界大戦の開戦から百年の節目で行われる慰霊祭で、その重要性がより鮮明になります」（ドイツ大使館公使）。11月16日、船橋市営習志野霊園の「ドイツ軍人追悼慰霊祭」に参列した来賓の各氏は永年続けられてきた慰霊祭の歴史的な意義と平和への願いを次々に訴えた。

「異国で倒れた方々のご冥福を祈り、全地球上に平和の訪れんことを切に願いつつ、シュバルツバルトよりこの庭に植えられたドイツカシワの下の佇むのです」と、続けた。

習志野第九合唱団16人によるドイツ国歌に続き、ドイツ公使ら来賓が厳粛な面持ちで追悼の辞を次々に述べた。

（来賓各氏の追悼の辞は2面に要旨掲載）

約1時間にわたる慰霊祭の後、自衛隊第1空挺団の隊舎で31人が参加して、直会（なおらい）が行われた。今年は協会主催20回の節目に当たるため、空挺団の協力を得て当協会の活動はじめ、習志野俘虜収容所のドイツ兵たちの模様、当協会の活動を伝えた写真パネル104枚が会場に展示され、公使、武官ら多くの参会者が興味深そうに見入っていた。

＜慰霊祭の後、参列者の記念撮影＞

＜自衛隊第一空挺団の隊舎内で展示された協会の写真に見入るドイツ大使館公使、大佐と、直会（なおらい）参加者＞

慰霊祭の来賓各氏　追悼の辞（要旨）

◆ドイツ大使館公使　**Stefan Herzberg 氏**＝今年の慰霊祭は第一次世界大戦開戦 100 年目という節目の中で実施されています。当時、互いに敵として戦った日独の兵士のことを思いやる時、このような慰霊祭の重要性がより鮮明になります。慰霊祭は歴史を思い起すことであり歴史に責任を持ちこのような歴史は二度と繰り返さないという戒めでもあります。この慰霊祭の維持に貢献され、亡くなった人たちへの思いを持ち続けておられる皆様には心からお礼を申し上げます。

◆千葉県知事代理　総合企画部次長**板倉正典氏**＝本年は第一次大戦の開戦から百年目の年に当たります。わが国とドイツ両国は二度にわたる大戦の後、平和を願う国民の英知とたゆまぬ努力により荒廃の中から立ち上がり、世界に類を見ないめざましい発展を遂げてまいりました。国と国とが対立する中でも過去この地においてドイツ将兵の方々と県民との間に温かな心の通い合いが生まれたという事実は私たちに多くのことを教えてくれるものです。

◆船橋市長代理　副市長**山﨑健二氏**＝第一次世界大戦が終結してから 96 年、私たちは戦争を振り返る手だてが必要です。戦争がもたらす悲劇を思い起して、平和の大切さを確認し合うことが大切であると考えます。・・千葉県日独協会のご尽力で続けられている慰霊祭は、日独両国の友好はもとより世界平和を築く上でも大きな意義をもつものであります。

◆習志野市長、同市教育長代理　社会教育課長**上野久氏**＝銃剣を交えた悲しむべき過去を持つ国同士が平和と友好を育めるのもかってこの地で同じ景色を眺め同じ空気を吸った者が「国」を超え「人」として交わり、そこに芽生えた共感があったからに違いありません。平和が渇望されている今こそ、我々はその歴史を紐解き次世代に語り継ぐことが異国の地でお亡くなりなった方々への最大の供養であります。

慰霊祭 *Interview*（式場、直会場で）

◉ドイツ大使館武官、**Carlsten Busch 大佐**＝慰霊祭には昨年から参列していますが今年は 20 回目で、感動を新たにしています。毎年の慰霊祭は私たち大使館の活動で、大変大きな意義を持っています。

◉20 年前、慰霊祭開催を推進した**林静誠氏**＝慰霊祭にこれほど多くの人が参列したのは初めてです。来賓の方々のご挨拶も素晴らしかった。改めて、慰霊祭は若い人たちとともに大切に続けていきたいと感じました。

◉林氏らと慰霊祭を推進し、当協会初代会長を務めた**故加藤吉昭氏**の夫人で歯科医、**和子氏**＝主人が亡くなってから 13 年が経ちますが、慰霊祭が 20 周年を迎えたことを喜ばしく思います。主人が日独友好に少しでもお役に立てたことに感謝しております。

◉永年の墓守・故石﨑申之氏の長男で、自身も清掃をした医師、**石﨑満氏**＝ 久しぶりに参列して、深い感慨を覚えました。

◉第一空挺団副団長、**山口耕司一等陸佐**＝収容所のドイツ軍人は“友好使節団”のように交流をした。自衛隊演習場内にある「習武台」はドイツ兵がつくったもの。私たちは来年 1 月の初降下訓練用にこれを拡張したので、ドイツ大使、公使をお招きし新たな交流をしたいと思います。

◉県立千葉女子高のオーケストラ部 6 人の生徒を連れて参列した同校の**山岡健先生**＝初めてでしたが、厳かな慰霊祭、とくに協会の方が亡くなった 30 人の兵士 1 人ひとりの名前を読み上げていく威厳ある姿に感動しました。来年も是非、参列したいと思います。

◉同校 1 年、**翠川優花さん**＝かって敵だった国なのに、亡くなった兵士を追悼し続けていることにとても感動しました。

板東俘虜収容所 *研修旅行の記*

真っ青な空。白亜のドイツ風建物。きれいに清掃・整備された収容所跡。当協会のボトルシップ研究会（須古正恒・座長）が 3 年半前から課外学習の一つにしていた「鳴門市ドイツ館・板東俘虜収容所跡訪問」が実現した。この研修旅行は、当協会主催のドイツ軍人追悼慰霊祭の 20 回開催記念に合わせて 11 月 19 日（水）～20 日（木）に実施したもので、17 人が参加した。

徳島空港からバスで約 40 分。鳴門市大麻町、2000 ㎡の高台に、2 階建ての白いドイツ館が目に飛び込んできた。12 億 6000 万円をかけて 93 年に完成した「ドイツ館」である。木組み造りの旧館の 5 倍の規模を誇る、2 代目。にこやかに私たちを出迎えた川上三郎館長（徳島大名誉教授）が早速、2 階の展示室へ案内してくれた。

私たちの目を奪ったのは板東収容所を再現した模型図。第 1 次世界大戦の青島戦で日本軍の捕虜となり、ここに収容されたドイツ兵は約千人。1917 年 4 月から約 2 年 10 ヶ月の短い期間であった。模型はヤコービーが描いた収容所(57,233 ㎡)の地図をもとに再現した。この地図は 1919 年 4 月 1 日現在の収容所内の配置図で、所内の石版印刷所で作られ、捕虜たちが日常的に使っていたものだという。ドイツにこの地図を送った者もいた。管理棟から、下士官兵用居住棟（バラッケ）、温水浴場、料理屋台、酒保、医務室、図書室。さらに、音楽堂、士官用カジノ、植物園のほか、敷地内の丘陵から池まで見事に復元されている。

川上館長は「映画『バルトの楽園』(2006 年上映)に描かれたように松江豊寿所長は捕虜を人として尊重しました」などと当時の生活ぶりを説明した。参加者は「捕虜たちの給料はどうなっていたか」「お風呂は週 2 回か」「サッカーなどスポーツは柵の外でしたというが、日本の見張りはどうだったか」など次々に質問を続けた。

（3 面につづく）

収容所の再現模型の脇にはバラックのミニチュアがあり、ガラス越しで飲食する捕虜たち、ベットで読書する兵士の姿が覗ける形。

板東収容所は、捕虜たちによるオーケストラがこの地で初めてベートーベンの第九交響曲を演奏したことで知られる。ドイツ館２階の「第九シアター」では、等身大のヘルマン・ハウゼン（当時の指揮者）のロボットがタクトをふるい、精巧な人形たちが楽器を手に演奏する。

図書室では、板東のオリジナルをはじめ、久留米、丸亀、習志野などの文献から成る総数 5600 点におよぶコレクションがあるという。

この旅行に先立つ須古座長の事前講義が思い浮かぶ。第一次大戦後の日本では俘虜収容所の「誘致合戦」が各地で繰り広げられていた。収容所が設置された市町村では、その経済効果が大きい、とされた。陸軍省から 1000 人の捕虜に対して約２万円（現在の８千万円）の補助金が出た。ここ板東の場合、捕虜の１年分の食費が町の数年分の歳入に匹敵した。久留米収容所では、捕虜たちが飲んだ酒保の売り上げが 1916(大正5)年だけで 22 万 8 千円、同市の歳入を上回った。習志野では？

板東収容所はリューネブルク(Lüneburg)市出身者が多かったという縁で、鳴門市は同市と姉妹都市提携を結び、今年も市長ら使節団 60 人が鳴門市を訪れて交流した。

私たちはドイツ館の後、収容所跡やドイツ人捕虜が作った大麻比古神社のめがね橋、ドイツ橋を訪ねた。いずれも川上館長が自ら案内に立ち、詳しい説明をしてくださった。改めて、館長に感謝を申し上げたい。

２日目はドイツ人捕虜たちの作品展覧会場にもなった霊山寺（四国八十八箇所霊場第１番札所）を訪問し、鳴門の渦潮、「大塚国際美術館」（陶板名画美術館）を併せて見学するなど慌ただしくも学ぶところの多い旅だった。

ドイツと私

Berliner Mauer

ベルリンの壁

橋口　昭八

ここにコンクリートの破片がある。長さ 15 ㎝、幅 10 センチ、東ベルリンのポツダム広場にあった「壁」の一部である。西側で描かれたストリートアートの赤いペンキがのぞく。東西ドイツ分断の象徴といわれた壁の崩壊から 25 年。この破片を眺めながらドイツに関わった半世紀余の中で劇的であった往時が脳裏を駆け巡る。

あの日、1989 年 11 月 10 日。私は東京の本社で朝を迎えていた。ベルリン事務所からは「興奮の電信」が入り、早朝のテレビは壁によじ登った若者がハンマーを振るう映像を流していた。そしてこの時、東独からは数日後に予定の日本・東独経済委員会のための先遣隊がホテルニューオータニに泊っていた。私はその中のカウンター・パートと昼食を共にした。彼らもホテルで同じ映像を見て驚き、即刻ベルリンに電話をいれ、東独の開放政策への転換を確認、政治、経済の基本は変わらぬが出国は自由化されたと、話す表情の明るさが今も印象に残る。この会議は主役の外国貿易大臣の到着が一日遅れたが、予定通り開かれ、同大臣から東独の新政策が発表された。しかし、これが実現されることはなかったのである。

「壁のお蔭で商売ができる。『壁様、様だな』」などと不届きな軽口をたたいていた私たち。壁がなくなった瞬間、東独やコメコン諸国との商売がほんとうに消えた。そして翌年からデユッセルドルフを拠点にして“商売再構築”を賭けた３年間の東欧巡業が始まった。

壁はどうなったか？上記パートナーから「あの壁を買わないか」と持ち掛けられた。61 年８月 13 日から順次建設された「壁」は１ブロックがＬ字型の鉄筋コンクリート。高さ 3.4 メートル、幅と地中のＬ字部が各々1.25 メートルで重さ 2.5 トン。１ブロックが日本の港へ着けて 1300 万円という。「在庫はあるよ」とも。平和の記念にと広島、長崎の支店に持ち掛けたが、Nein Danke。 そのうちに話は立ち消えとなった。ドイツでは、ライン川とモーゼル川が合流するコブレンツのドイッチェス・エックに統一記念の３枚が立つ。沖縄・宮古島のドイツ文化村にもあると聞く。

90 年初めのベルリンで。この後でニセモノが出た。

底冷えするベルリンの路上では露天商が「壁」の塊を売っていた。ロシア、東欧系が多かった。後にニセモノも出回った。私のものは後任からもらった本物だが・・・。

私の瞼には２つのパレードが交差する。79 年の建国記念日。Fackel（松明）を掲げインターナショナルを歌いながらウンターデンリンデンを続々と繰りだす FDJ(自由ドイツ青年団＝独社会主義統一党の下部組織)の堂々の行進は圧巻だった。10 年後の 89 年 10 月 7 日。あの FDJ が、行進を迎えてテラスに立つゴルバチョフ、ホーネッカーに向かって「ゴルビー！ゴルビー！」のシュプレヒコール。東独や東欧にヒタヒタと寄せていた自由化の波。崩れることのないと信じられた「壁」の行方を暗示していたのだろう。

手元のコンクリート片は、ドイツの戦後史と、「ドイツと私」の証しのように思われる。

「ぼうぼうあたま博物館」の館長夫妻、御宿町訪問

御宿町では 10 月 22、23 日、フランクフルトから「ぼうぼうあたま博物館」のツェーコルン館長と夫君を迎え、同町五倫文庫との姉妹提携を深める交歓行事が開かれた。この提携は今年５月、当会の総会記念講演で五倫文庫理事長伊藤良昌氏が紹介された通り(DieEiche88 号、当会ＨＰ参照)、1845 年にフランクフルトの精神科医ハインリッヒ・ホフマンにより作られた国民的教育童話を 1936 年伊藤良昌氏の尊父、伊東庸二海軍技術将校が在独中に日本語に翻訳されたのが縁で、1991 年に前代ヘルツォーク館長が御宿を訪問され、締結された。

両日とも生憎雨模様であったが、22 日午後、山手にある赤煉瓦の御宿町役場で公式の挨拶が交わされ、相互の活動報告が行われた。夜はサヤンテラスで歓迎レセプションが催され、石田町長の挨拶、宗宮会長の音頭で乾杯、終始和やかな雰囲気であった。23 日は午前中に布施小学校と御宿小学校で「ぼうぼうあたま」の紙芝居があり、校内見学と併せ館長夫妻は深い感銘を受けたという挨拶をされた。当会から宗宮会長、杉田事務局長、橋口が参加。石田町長が終始、熱心にホストを務められたのが印象的だった。伊藤良昌氏、光昌氏、息女太田美保氏のご努力に敬意を表し御宿町の日独交流の益々の発展をお祈りする。

ツェーコルン館長は中央右

恒例の３市ビール祭りが開かれる

◆**いちかわドイツデイ**　今年もニッケコルトンプラザのコルトン広場で 9 月 28 日(日)に開かれ、当会は後援並びに写真展示（「当会の活動」と「ドイツと千葉県」）で協力、連続４回目の参加。この行事は市川市がバイエルン州ローゼンハイム市と提携した姉妹都市盟約書に基づき開催されるもので、来年は提携実質 10 年の大型行事を予定しているので今年は開催は一日にした。ドイツビールとソーセージのテントには快晴の中、長い行列ができ、若い家族で賑わった。

◆**船橋オクトバーフェスト**　開催は晴天に恵まれた 10 月 10 日(金)～12 日(日)。JR 船橋駅北口のエスカレーターを上がると会場の二階広場入口に「千葉県日独協会」のテントが張られ、千葉県とドイツとの交流の写真パネルに興味をもって見てくれる通行人が予想以上に多く、また、ドイツ語講習会案内で受講申込者も数人得られた。広場内ではビール、ソーセージ等のドイツ料理店 10 軒に計３千人の行列ができ、舞台ではチロル地方のヨーデル、アルプスホルン等の爽やかで賑やかな音楽が今年で 2 回目のドイツ祭を盛り上げていた。

◆**習志野ドイツフェア＆グルメフェスタ**　市制 60 周年にあたる今年は 10 月 18 日（土）～19 日（日）に開かれ、「ドイツ色を強める」ことに力を入れた。JR 駅前の津田沼公園の出店はドイツ、地元の２コーナー。ドイツ関係はワイン、ビールやソーセージ、雑貨など 10 店舗が陣取った。モリシアビル内では当協会が「協力」の形で「習志野俘虜収容所」「ドイツと千葉県」の写真展を開催した。屋内外２つのステージで、地元のアメフトチームの女性応援団や中学の吹奏楽部などの演奏、市制トークなど多彩なイベントに計 2.5 千人が湧いた。

◇これからの催し

催しもの	開催日	曜日	時間	場　　所	内　容　な　ど
2015年新春講演会	2/21	土	13:10	千葉市生涯学習センター	講師：黒川剛（つよし）氏＝（公財）日独協会理事　演題：「2つの
			～	（千葉市中央区弁天3-7-7）	大戦と日独関係」 /入場・無料　但し、定員(86人)限り/
			14:45	☎ 043-207-5811 (代)	問合せ：☎ 080-4463-2609　当協会行事担当(9:00 – 18:00)

◇会員の活動

土屋有里氏ピアノリサイタル	12/20	土	19:00-	JTアートホールアフィニス	演目：ベートーベン　ピアノソナタ第15番　ニ長調作品28「田園」シュ
（当協会々員）				（東京港区虎ノ門2-2-1）	ーマン　森の情景作品82　3つのロマンス作品28　ブラームス　4つの
				☎ 03-5572-4945	小品　作品119 /チケット取扱い：東京文化会館チッケトセンター　☎
					03-5685-0650/問合せ：☎090-5544-5306　iris_andte21@yahoo.co.jp

編集後記

★習志野で慰霊祭が行われた日。ドイツでも同じ日の「国民哀悼の日」に中央式典が連邦議会で行われ、TV 中継された。この後、1816 年のプロイセン時代に建てられた Neue Wache で大統領ら要人が献花した。ドイツ統一後の 1993 年、第１次大戦以後のすべての戦没者、犠牲者が追悼されるという。加害者と被害者をともに追悼することに異論があるとされる。国民の間では、ナチへの「贖罪意識」がなお、強いからだ。習志野俘虜収容所では 30 人が死亡した。うち 25 人がスペイン風邪の犠牲者。各種史料によると、スペイン風邪は当時、日本では人口の３分の１、2380 万人が罹り、40 万人が死亡。世界では、わずか１年間で、４年間の大戦戦死者 850 万人を遥かに上回る 2500 万人が死亡したとされる。5000 万人との説もある。習志野俘虜収容所の犠牲者は不幸ではあったが、私たちと、多くのドイツ人が慰霊祭に向き合う時、「贖罪」という点でそれぞれの気持ちにはかなり隔たりがあるように感じられる。

★「ドイツと私」のコラムがスタートしました。ドイツの人、もの、言葉、音楽、風景、写真、思い出などなど。私たちとのつながりを思い、ドイツ（ドイツ語圏）の理解を共有していきたいと願っています。　(M.T)